



坐す、天津大御神の挙教戒事ならと云へり。……と記載されています。

即ち、「この朝、此の神は常陸国より、大和の大坂山に現身を現わし給ひ……云々とありますが、その大坂は「延喜式」神名帳葛下郡の項にのっている大坂山口神社のある一帯で、思うに二上山の北麓を指すのでしよう。

『万葉集』巻一〇に詠まれ、「古事記」『日本書紀』崇神天皇九年三月成寅の条と、四月巳酉にも黒き盾八枚、黒き矛八竿を以ちて(大坂の神)を祀ったとあり、一あの壬申の乱に際しては、近江方の軍が大坂道を越えて大和へ入らんとして、吉野方の軍が苦戦したことが書かれています。愚考しますと、神代日本の国号は、豊

葦原千五百秋瑞穂国、葦原中国、秋津島敷島などであり、それに加えるに古代の奈良盆地は沼沢状で、丘陵地は(島)の如く浮かんで見えたものであるうかと思われまふ。したがって前述の呼称のように、香はしき島「香島」と登録したいものです。

と空想してみますと、面白く感じられると成りません。全国六六〇番目、奈良県一〇番目の「香芝市」の誕生であり、誇り得る美しい現代的なネームであると確信する次第であります。

香芝路を巡りて

春を惜しみけり

其因

香芝——小さい神・仏の風景——寒施行

高垣 又太郎(畑)

お稲荷さんは、全国各地に大小を問わず広く分布していますが、大工場の一隅から近代ビルの屋上に、そして同業者による祭祀がおこなわれ、同族神や屋敷神としても祀られています。しかも家族神として個人の家の神棚にも入り、庶民の日常生活のなかに脈々として生きつづけています。

「油アゲ」「スルメ」「小魚類」等をセツトにして、夜も更ける頃から近隣のお稲荷を祀る小祠を巡々にお詣りして、セツトの供物を狐にお供えしたものであります。それ等の場所は、何れも山から神が降って田の神のよりしろとなる絶好の地点にあります。

御繁栄、裏面には明治廿五(一九〇二)年八月一日齋主蟹守孝光(前記式内大社宮司)施主高垣源蔵とあります。それより古いものには明治四(一八七二)年辛未二月廿二日、願主高垣玄蔵、弘化四(一八四七)末二月八日(他判読不明)など記銘のお札があります。この地は北斜面が山林となり、下に二つの池が構築され南、東に広がる田地の灌漑拠点となり、重要な源を護っているものであります。

だくことこのたのしさ、季節をいりどる豊かな農村風景があります。

(3) 狐井の城山に(時には下田東の春日神社の社までも行きました)。

(4) 加守南方の米山池(この池は二上山から流出する水を受ける最適の地で下流磯壁の水田を養っている水源であります。構築の詳細は不明でありますがこの地の豪族仲氏によるものと伝承され、現在は磯壁の管理下にあります)。

(5) 加守の宇迦神社(前出)

(6) ついで加守廃寺跡の「四天王社」附近とその北側の「トン谷一塔谷」です。

「町内に伊勢屋、稲荷に犬の糞」と川柳にもあるくらい多くの祠があります。民間信仰との習合は、その基盤として考えられますことは古くから伝わる国の神、山の神への信仰であります。

寒施行は寒供用ともいいますが、私の少年時代が家では寒夜に「ンンン」と狐が鳴く大寒の頃になりますと、神棚に祀る「正一位雲達大明神」に数多くのお供物を供します。かつ「あじき飯のおにぎひ」

(1) 畑の東南(畑六丁目加守との境に近い)の「ヒラバヤシの稲荷」(現在高垣徹氏が祀る)通称が語るように「開く林地」まさに二上山麓の実出地であります。この祠は同家の祖先がこの地に加守の葛木倭文坐天羽雷命神社(式内大社——郷社)の境内左側小丘陵上に祀る末社宇迦神社(稲倉魂命神)を請遷したもので四メートル四方の屋形の中に祠っています。神体としてのお札に「奉正遷宮稲倉魂命御鎮座」、左側に「所祈社頭

(2) ついで前記の「カマシハ稲荷」にお供えします。現在氏子を持たないが崇敬者によって修復経営維持されています。杉作稲荷、長山稲荷と書いた提灯が奉納されています。祭神は保食命となっています。(明治二四年調、神社明細帳)当時の信徒三〇〇人とのことであります。小学校の頃の思い出として、学校の東南になびくお稲荷さんののほりに心をよせて「今日はお稲荷さんや」「綿菓子」を買いに、小旗のついた飴をいた

この範囲は約二キロメートルの半円形であって、当時の村人の活動の日常的な生活範囲ともいえる地域で、この事を明治三四年四月に組合立下田小学校に併置設立された高等小学校(当麻村からも委託生をうける)の通学範囲と重ねて考えれば、他地域にも適用することができるといえます。